

大田原市議会議長

新年あけまして



議長 引地 達雄 副議長 黒澤 昭治

新年明けましておめでとうござい
す。平成27年12月定例会におきまして、
第42代大田原市議会議長に就任いたし
ました引地達雄でございます。

平成28年の年頭にあたり一言ご挨拶
申し上げます。

今、地方創生が叫ばれる中で、地方
自治体や地方議会の役割は、今後さら
に重要視されていきます。従来の地方
施策は、国が考え、そのまま地方に下
されてきた形でしたが、地方創生は従
来の形ではなく、それぞれの自治体で
何が必要で、何ができるのかを見極め、
それらに対して国が必要な資金援助や
人材を支援してくれる制度であります。
そのようなことから、今までのよう
に地方が単にお金だけを求めても応じ
てはくれません。各自治体の力量が求
められ、何が必要なのか、どうすれば
活性化できるかをしっかり考え、その
土台に合った政策を具体的に考える必
要があります。

本市も昨今、人口の減少や少子高齢
化が急激に進展しております。大田原
市人口ビジョンによると平成17年の7
万9023人をピークに、それ以降は
減少に転じ、平成27年10月1日現在で
は7万5198人と10年で3825人
の減少となっています。また、国立社
会保障・人口問題研究所の推計では、
2040年で6万2377人、206
0年には4万7961人に減少すると
見込まれております。

本市におきましては未来創造戦略を
策定し、人口ビジョンの将来展望の実
現に向け、今後5年間の基本目標を立
てたところですが、議会としても真の
地方分権を構築するため、地方創生の
具現化に積極的に関わっていくことが
必要であると考えております。また、
昨今の各種選挙において投票率の低い
状況が続く中、今般の市議会議員選挙
では無投票でありました。この結果を
踏まえ、議員定数については、今後検
討していく必要があると考えておりま
す。

地方創生時代にあつて、二元代表制
の一翼を担う議会の責務は益々重要性
を増し、市議会は議会基本条例を踏ま
え、議会のチェック機能の強化、政策
立案及び提言を行うことにより、市と
市民の橋渡し役として活動することが
求められます。議会制民主主義のルー
ルに則り、スムーズな議会運営に心が
け、円満に結論を決していきたいと考
えております。

結びに、市民の声が反映される議会
を目指して鋭意努力してまいりますの
で、市民の皆様には、なお一層のご支
援とご鞭撻を賜りますようお願い申し
上げますとともに、ご健勝とご多幸を
お祈りいたしまして年頭のご挨拶とい
たします。